

柏原市立学校建物の耐震性能について

(平成31年4月1日現在)

校種	学校園数	全棟数	耐震性能						
			新耐震基準と同等の 耐震性能を有するもの			新耐震基準と同等の 耐震性能を有しないもの		診断中	未診断
			A			B	C		
			<新耐震>	<改修済>	<改修不要>				
棟数	棟数	棟数	棟数	棟数	棟数	棟数			
小学校	10	42	12	24	6	0	0	0	0
中学校	6	24	11	11	1	0	1	0	0

※1 文部科学省では、非木造2階建以上または延床面積200平方メートル超の建物及び 木造3階建以上または延床面積500平方メートル超の建物を対象としています。

「耐震性能表」

平成31年4月1日 現在

耐震性能区分	構造耐震指標 (Is値)	構造耐力上主要な部分の地震に対する安全性
A	<新耐震> 新耐震基準(昭和56年6月1日以降の耐震基準に適合しているもの) <改修済> 耐震診断の結果を踏まえ、耐震改修をしたもの(現行の建築基準法と同等の耐震性能を満たすもの) <改修不要> 新耐震基準と同等の耐震性能を有するもの 第1次診断法ではIs値 ≥ 0.9 第2次診断法ではIs値 ≥ 0.6	大規模な地震の際に被害を受ける可能性が低い
B	第1次診断法では $0.9 > Is \geq 0.4$ 第2次診断法では $0.6 > Is \geq 0.3$	大規模な地震の際に被害を受ける可能性がある
C	第1次診断法ではIs値 < 0.4 第2次診断法ではIs値 < 0.3	大規模な地震の際に被害を受ける可能性が高い
(注) ・大規模な地震とは震度6強から震度7のものを想定しています。 ・第1次診断法で耐震性能「C」と判定されたものから、第2次診断法を取り組んでおります。また、第2次診断法で「C」と判定された建物から耐震化に取り組みます。		
第1次診断法	各階の柱と壁の断面積とその階が支えている建物重量から計算する最も簡便な方法	
第2次診断法	各階の柱と壁の材料強度と鉄筋量等から建物の強さ(耐力)と粘りを推定する方法	
構造耐震指標	建物の耐震性能を示す指標で、Is値で表し数値の大きいものほど耐震性能が高い。	
新耐震建物	昭和56年6月以降の新耐震基準の建物	
参考文献		
既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準・同解説 [2001年改訂版, (財)日本建築防災協会]		
屋内運動場等の耐震性能診断基準(文部科学省大臣官房文教施設企画部)		